

男子学生が抱く母性看護学実習に対する 困難感の変化の様相と影響する要因

大野理恵（応用看護学）

【キーワード】 男子学生・母性看護学実習・困難感・
変化・影響要因

本研究の目的は、男子学生が抱く母性看護学実習に対する困難感の変化の様相と影響する要因を明らかにすることである。研究参加者は、母性看護学実習を3年次後期に3週間実施したA大学4年生の男子学生9名であった。研究デザインは、半構成的面接法を用いた質的帰納的研究である。データ収集期間は母性看護学実習単位修得後の平成28年4月であり、1名につき1回実施し平均38分であった。分析方法は、まず録音されたインタビュー内容を逐語録にし、母性看護学講義前から母性看護学実習中に抱いた困難感と影響した要因に関する文脈をデータとして抽出した。次に、困難感と影響要因について、内容の類似性に従い、分類し、カテゴリー化した。

また、困難感の様相を明らかにするために、研究参加者個別に、母性看護学講義・実習に関する文脈をデータとして抽出し、困難感の変化の様相と影響する要因を整理した。さらに、研究参加者9名の困難感の変化の様相と影響する要因の共通性・相違性を検討した。また、研究参加者の実習への思いを縦軸にとり、上向きを積極的姿勢、下向きを消極的姿勢として図式化した。なお、本研究は、宮崎県立看護大学研究倫理委員会の承認を得て実施した。結果、「男子学生が抱く母性看護学実習に対する困難感の変化の様相と影響する要因」について、以下のことが明らかになった。

1 男子学生が母性看護学実習前から実習終了時まで抱いた困難感は、【看護の対象としてイメージできないという不安からくる学習への困難感】【将来の看護師としての自分に関係がない】【対象が女性であることに対するやりづらさ】などの11カ

テゴリーに分類された。

2 男子学生の困難感の変化に影響した要因は、【看護の方向性がみえる】【対象から受け入れられているという安心感】【実践を通して感じた満足感】などの6カテゴリーに分類された。

3 男子学生の抱いた実習に対する困難感の変化の様相は、「積極的姿勢へと変化」「困難感が継続」「実習前から消極的姿勢を示さない」の3つに分類された。「積極的姿勢へと変化」する様相には、急激に変化を示すものと、徐々に変化を示す2つのタイプがあった。これらの変化には、受け持ち対象者の「看護の方向性がみえる」ことと、「対象から受け入れられているという安心感を得る」ことが影響していた。また、積極的姿勢がみられたのは「看護者を目指す者としての意識を持った」時であった。

以上より、受け持ち対象者の「看護の方向性が見えること」、「対象から受け入れられているという安心感」が実習中の困難感の変化に影響する要因として重要であり、実習指導をする上ではこれらを十分認識し、困難感を抱く男子学生への支援を行う必要性が示唆された。また、困難感を持つ男子学生に対しては、「男性としての自分」に集中しがちな意識を、「看護者を目指す自分」へと意識が移行するように支援することが重要と考えられた。